

特別支援教育の充実について

1 特別支援教育の充実のための3つの視点

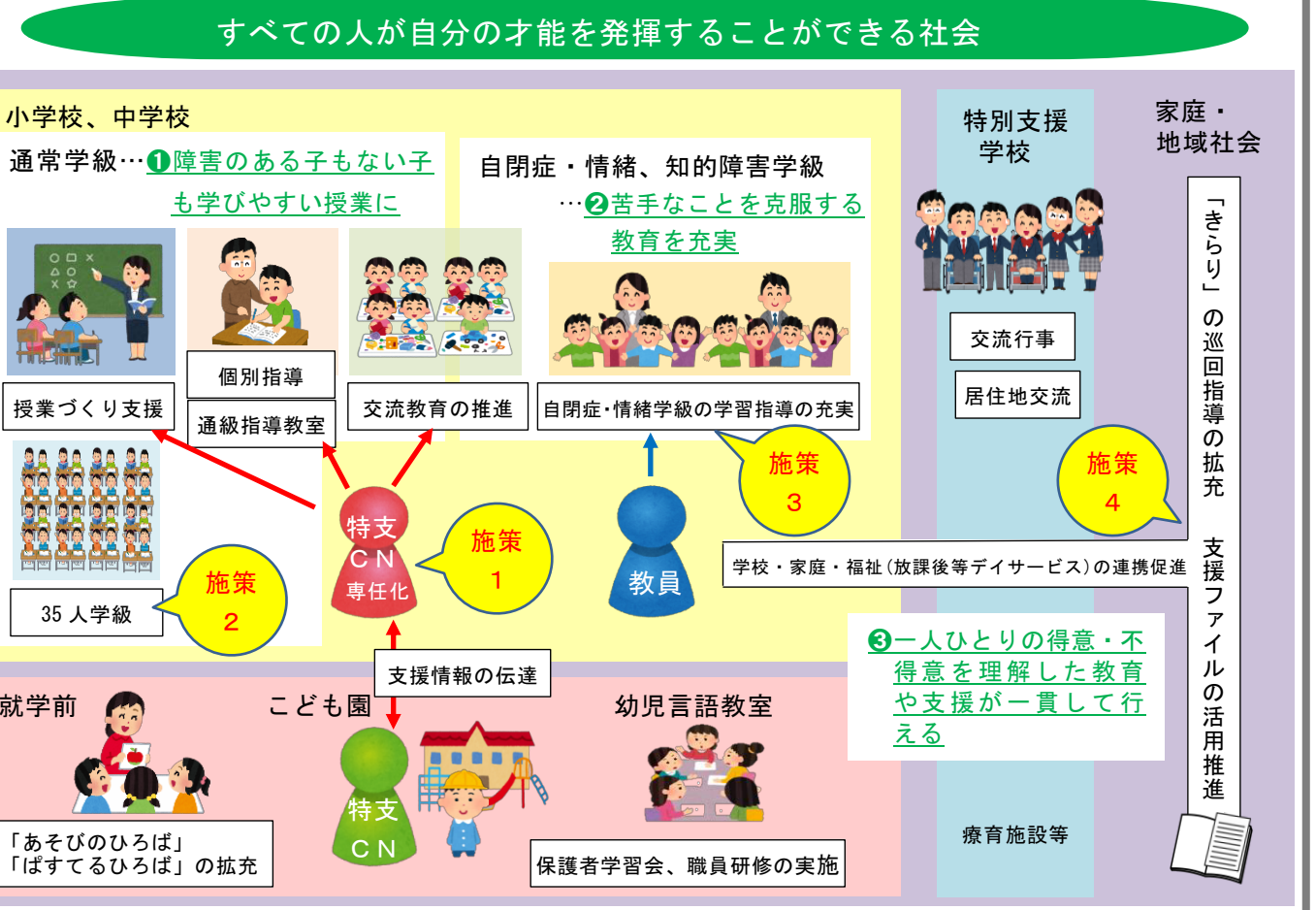
- (1) インクルーシブ教育システムの構築を推進するためには、**特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制づくり**が必要である。(◎)
- (2) 子どもたちが困難を克服するためには、**早期発見と早期支援**を行い、**将来の自立に向けて教員がその子の障害を理解し、個に応じた自立支援や学習支援**が必要である。(○)
- (3) 子どもたちの才能を夢につなげるためには、**幼児期から成人期までの縦に切れ目のない支援**と、**家庭、福祉、教育が連携した横に切れ目のない支援**が必要である。(◇)

2 課題と今後の取組の方向性

	課題	解決策
通常学級	◎ユニバーサルデザイン化された誰にでもわかりやすい授業の工夫が不足	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が組織的に特別支援教育を行うことができるように、特別支援教育コーディネーター(CN)を専任化する⇒施策1 ・通常学級で希望と能力に応じて授業を受ける体制整備(35人以下学級)⇒施策2
	◎障害のある子の特性に合った合理的配慮の提供が不十分	
	◎障害のない子が、障害のある子と一緒に学ぶための技能や態度が身に付いていない	
	◎無関心や特別扱いで自然体の交流が少ない	
自閉症・情緒学級 知的障害学級	共通	<ul style="list-style-type: none"> ◇年度ごとに柔軟で適切な在籍変更が可能な体制になっていない ◇集団活動への参加機会、通常学級と支援学級の双方向の理解と交流学习が不足 ◇多様化する中学卒業後の進路指導について校内外の情報共有ができていない
	自閉症 情緒	<ul style="list-style-type: none"> ○学年相当の学習を保障する時間割、教育課程が不十分
	知的	<ul style="list-style-type: none"> ○異学年が同一題材で学ぶことがあり系統性が失われやすい
	特別支援進路指導協議会、障害児(者)連絡協議会との情報共有の推進	
就学前	○早期発見と早期支援体制の不十分	<ul style="list-style-type: none"> ・「あそびのひろば」「ばすてるひろば」の拡充 ・個別支援計画、個別指導計画による情報共有促進 ・園と学校の支援情報伝達 ・幼児言語教室保護者会や子ども園職員研修会で特別支援教育に関する学習会を実施
	○特別支援教育に関する保護者の意識や園の理解度に差がある	
家庭・地域社会	<ul style="list-style-type: none"> ◇家庭・教育・福祉(放課後等デイサービス)が連携して子どもを支える体制になっていない ◇各成長段階を通して、一貫して支援する仕組みがない 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育と福祉の連携による支援体制の充実 ⇒ 施策4 ・発達障害者支援センター「きらり」の巡回指導の拡充
重度の子どもたち	○重度の子どもたちに対して関わりが薄い	<ul style="list-style-type: none"> ・県との合同研修などの教員の能力向上策の実施

3 目標：誰一人取り残さない特別支援教育を目指して

- ①障害のある子ども本人の希望によって通常学級で共に学びながら、②困難を克服するための質の高い自立支援の教育も受けられる体制を目指して学校を改革し、③子どもの可能性を最大限に伸ばす理想の教育環境を整える。



4 スケジュール

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	将来目標
施策1 特別支援教育CNの専任化	・特支教育CN候補者の選任、養成 ・配置やローテーション方法の検討		実地研修の実施	モデル的に専任化	1 必要に応じて適切な学びの場が選択できる指導体制の充実
施策2 35人以下学級の完全実施		ユニバーサルデザインの実施を普及			2 学習集団の中で個々の力が最大限に発揮される学びの実現
施策3 自閉症・情緒障害学級の学習指導の充実	子どもへの対応力を高める研修体制の検討		「静岡市型35人以下学級」完全実施		3 支援学級における基礎学力の育成、コミュニケーション力向上
施策4 教育と福祉の連携による支援体制の充実	連携促進に向けた情報共有の書式や運用の見直し	スポット校で実施	・効果検証 ・検証結果を踏まえ拡大実施		4 ライフステージに応じた適切な支援の提供により子どもの夢が実現